

新しい文化を 築いた人たち

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する資料の発掘収集・保存、事跡の調査研究と公開展示をしております。
世界的な東洋史学者「内藤湖南」、
十和田湖の開発に尽力をした「和井内貞行」の
両氏をメインに常設展示し、
さらに各界の先覚者を順に展示紹介しております。

岩館知義・松岡隆一・二人展

～ 鹿角市ゆかりの二人の画家 ～

H29. 4～H30. 3



鹿角市先人顕彰館

〒018-5334 秋田県鹿角市十和田毛馬内字柏崎3番地2
TEL 0186-35-5250

先人顕彰シリーズの展示

ふるさとの豊かな文化の礎と、すぐれた先人の遺徳を偲ぶ...

- ◆第1次展示 H2.7-H3.6
杉山万喜蔵 (1907-1957) 地域医療に貢献 (尾去沢)
小田島樹人 (1885-1959) 気品に富んだ作曲家 (花 輪)
関直右衛門 (1873-1943) 鹿角の観光に新時代を築いた (八幡平)
阿部 藤助 (1886-1928) 郷土の興隆に生涯を捧げた (八幡平)
- ◆第2次展示 H3.7-H4.6
小田島由義 (1845-1920) 郡長として殖産興業に尽くした (花 輪)
浅井小魚 (1875-1947) 俳人・大湯環状列石発見者 (大 湯)
田村徳治 (1886-1958) 日本行政学の創設者 (花 輪)
大里武八郎 (1872-1972) 名著「鹿角方言考」の著者 (花 輪)
渡部 繁雄 (1886-1976) 地域農業の近代化を促進 (八幡平)
- ◆第3次展示 H4.7-H5.7
阿部 恭助 (1886-1928) 鉱山日記「阿津免草」の著者 (尾去沢)
立山 第四郎 (1867-1937) 郷土の産業と教育に貢献 (毛馬内)
川村 竹治 (1871-1955) 育英会を創立した司法大臣 (花 輪)
諏訪 富多 (1883-1981) 地域産業文化の発展に貢献 (大 湯)
- ◆第4次展示 H5.8-H6.7
田中 北嶺 (1838-1918) 「戊辰戦役図絵」を描く (毛馬内)
坂田 祐 (1878-1969) 関東学院設立と教育に献身 (大 湯)
大里 周蔵 (1884-1965) 町政に尽力した文化医師 (花 輪)
栗山文次郎 (1886-1965) かつの古代茜、紫根染の大家 (花 輪)
高杉重右衛門 (1889-1964) 地方行政農事に寄与・歌人 (尾去沢)
- ◆第5次展示 H6.8-H7.9
浅利 佐助 (1844-1920) 醤油醸造業の基礎を築いた (花 輪)
宮城 佐次郎 (1881-1951) 教育と地方自治に貢献 (花 輪)
伊藤 良三 (1883-1964) 教育と町政に尽くす (毛馬内)
立山 林平 (1888-1918) 将来を嘱望された天才数学者 (毛馬内)
阿部 貞一 (1895-1950) 農村電化と観光事業の先覚者 (八幡平)
- ◆第6次展示 H7.10-H8.9
児玉 高慶 (1888-1929) 武道を奨励し青少年を指導 (花 輪)
阿部 六郎 (1893-1974) 郷土文化の向上に貢献 (花 輪)
- ◆第7次展示 H9.10-H10.9
内田 武志 (1909-1980) 民俗学と菅江真澄の研究 (八幡平)
豊口 鋭太郎 (1873-1952) 秋田県教育振興に貢献 (毛馬内)
種市 霊山 (1882-1945) スケールの大きい気骨の書家 (毛馬内)
- ◆第8次展示 H11.11-H12.10
高橋 克三 (1888-1984) 湖南研究と地域先人の顕彰に尽力 (毛馬内)
- ◆第9次展示 H12.11-H13.11
黒沢 隆朝 (1895-1987) 音楽教育と音楽起源の研究 (花 輪)
大里 健治 (1898-1978) 音楽、郷土芸能の振興に寄与 (毛馬内)
- ◆第10次展示 H13.12-H14.11
石田 収蔵 (1879-1940) 北方民族研究の草分け (花 輪)
- ◆第11次展示 H14.12-H15.11
石川 伍一 (1866-1894) 国益に殉じた生涯 (毛馬内)
- ◆第12次展示 H15.12-H16.11
小松 五平 (1891-1972) 鳴子旧系こけしを継承した名工 (大 湯)
川村 薫 (1897-1976) 果樹指導と郷土新聞の草分け (花 輪)
- ◆第13次展示 H16.12-H17.11
相川 善一郎 (1893-1986) 彫塑・彫刻など文化活動に貢献 (花 輪)
馬淵 テフ子 (1911-1985) 空駆けた女流飛行家 (八幡平)
- ◆第14次展示 H17.12-H18.11
川口 月嶺 (1811-1871) 盛岡藩を代表する絵師 (花 輪)
泉澤織太 (1777-1840)・牧太 (1778-1855)・恭助 (1806-1870) 学者の家系 (毛馬内)
- ◆第15次展示 H18.12-H19.11
佐藤要之助 (1859-1892)・良太郎 (1878-1912) 鹿角りんごの礎 良雄 (1906-1977) チェロ奏者 (花 輪)
- ◆第16次展示 H19.12-H20.11
小田島 艸子 (1882-1969) 花輪俳談会を創立 (花 輪)
鎌田 露山 (1891-1966) 毛馬内俳句会を設立 (毛馬内)
- ◆第17次展示 H20.12-H21.11
山先 青山家の人々 山相家 青山の名を高めた 青山庄蔵栄重 (尾去沢)
山先 川口家の人々 欧米の採鉱技術を学んだ 川口理仲太
- ◆第18次展示 H21.12-H22.11
瀬川 清子 (1895-1984) 女性民俗学の開拓者 (毛馬内)
- ◆第19次展示 H23.3-H24.3
先人顕彰回顧展 浅利佐助他パネル展示
- ◆第20次展示 H24.10-H25.3
和井内貞行「没後90年展」 十和田湖開発の父 (毛馬内)
- ◆第21次展示 H25.6-H25.12
柴田 春光 (1901-1935) 才能をうたわれた若き画家 (毛馬内)
- ◆第22次展示 H26.8-H27.6
内藤湖南「没後80年展」 東洋史学の開拓者 (毛馬内)
- ◆第23次展示 H27.6-H28.3
畠山文象遺墨展 書道の発展に寄与 (毛馬内)
- ◆第24次展示 H28.4-H29.3
内藤湖南「生誕150年展」 東洋史学の開拓者 (毛馬内)
- ◆第25次展示 H29.4-H30.3
岩 館 知 義 (1925-2016) 郷土鹿角が生んだ風景画の詩人 (大 湯)
松 岡 隆 一 (1924-2016) 土着性を追求した画家 (合 川)

郷土鹿角が生んだ風景画の詩人

Tomoyoshi Iwadate

岩 館 知 義

いわだて ともよし

1925-2016 (大 湯)



小学校の頃より聡明で絵を描くのも上手く、周囲の人や学友は皆早くからその才能を認めていた。大湯小学校大清水分校、大湯小学校で教員をし、昭和24年退職。絵の道を志し27年上京、木下孝則先生に師事した。

昭和30年一水会展に初出品し入選。32年に一水会賞受賞、翌年同会員となり、以来数多くの賞を受賞。

昭和46年には石田博英氏の薦めもあり一年間渡欧、仏国サロン・ドートンヌ入選、帰国後滞欧作展開催。また神奈川美術展実行委員もしていた。暇をみては郷里に来て、十和田湖や鹿角の風景を多く描いた。

略 歴 a brief personal record

大正14年(1925) 8月5日、弥次郎・フサの長男として大湯に生まれた。
昭和31年(1956) 日展入選。
昭和32年(1957) 一水会賞受賞。翌年一水会会員となる。のち一水会会員佳作賞多数。
昭和41、43年(1966、1968) 神奈川県展議長賞受賞。
昭和46、47年(1971、1972) 渡欧。サロン・ドートンヌ入選。滞欧展。
昭和63年(1988) 「画業40年」展 十和田湖50景 於花輪公民館。
平成3年～(1991) 東京銀座松屋、秋田、酒田などにて個展。
平成28年(2016) 3月18日没。享年91歳。

土着性を追求した画家

Ryuichi Matuoka

松 岡 隆 一

まつおか りゅういち

1924-2016 (合 川)



花輪町に「アトリエ・マツオカ」を開き、看板デザイン業のかたわら水彩画、さらに油彩画を描きはじめた。

都市のトータルサインである看板業では、卓越したデザイン力で業界をリード、観光地鹿角の多彩な歴史・文化的遺産を背景に独自の“滞留型観光・都市のビジョン”を提言した。絵画は三軌会創設者の一人、互井開一に師事した。作風は具象から抽象に向かい新写実に移る。

“真実は素朴である”との信念で土着性を追究した。画号は彩雪。

個展の開催、花輪図書館読書感想画コンクールの審査員、またアトリエを解放して絵画での市民交流に努めた。

略 歴 a brief personal record

大正13年(1924) 8月26日、友治・スミの長男として、現北秋田市合川に生まれた。
昭和24年(1949) 花輪町に「アトリエ・マツオカ」を開き看板業と絵画制作を続けた。
昭和31年(1956) 三軌会展で「太海風景」「海岸」が初入選。昭和32年「いのち」、昭和35年「石の変貌」がそれぞれブルー賞を受賞。代表作は「足を洗う」「馬車曳き」「里」「春の原風景」「望」。
昭和55年(1980) 北鹿新聞に“滞留型観光・都市のビジョン”を寄稿、57回連載。
平成7年(1995) 三軌会評議員・秋田県支部長。秋田県ディスプレイ協会理事長。
平成28年(2016) 花輪文化祭に個展を準備中、10月15日急逝、享年92歳。